

製品名: eIF4E (リン酸化 Ser209) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04600**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	EIF4E
別名	EIF4E; EIF4EL1; EIF4F; Eukaryotic translation initiation factor 4E; eIF-4E; eIF4E; eIF-4F 25 kDa subunit; mRNA cap-binding protein
遺伝子 ID	1977.0
SwissProt ID	P06730
免疫原	抗血清は、Ser209 のリン酸化部位周辺のヒト eIF4E 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 168-217

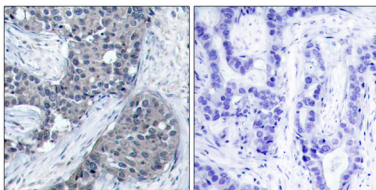
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、真核生物翻訳開始因子 4F 複合体の構成要素であり、メッセンジャー RNA の 5'末端にある 7-メチルグアノシンキャップ構造を認識する。コードされるタンパク質は、リボソームを 5'キャップ構造にリクルートすることで翻訳開始を促進する。このタンパク質と 4F 複合体の結合は、翻訳開始における律速段階である。この遺伝子はプロトオンコゲンとして機能し、その発現と活性化は形質転換および腫瘍形成と関連している。この遺伝子の複数の擬遺伝子が他の染色体上に見出される。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2015 年 9 月]、注意: 当初は Ser-53 がリン酸化されると考えられていた (PubMed:3112145)。これは後に誤りであることが示されました (PubMed:7665584)。,機能:タンパク質合成開始の初期段階で 7-メチルグアノシン含有 mRNA キャップを認識して結合し、mRNA の二次構造の巻き戻しを誘導することでリボソーム結合を促進します。 ,PTM:リン酸化により、タンパク質が mRNA キャップに結合して eIF4F 複合体を形成する能力が向上します。 ,類似性:真核生物の開始因子 4E ファミリーに属します。 ,サブユニット:eIF4F は、その構成が外部および内部の環境条件によって変化するマルチサブユニット複合体です。少なくとも EIF4A、EIF4E、および EIF4G1/EIF4G3 で構成されています。EIF4E は他のパートナーと相互作用することも知られています。EIF4ENIF1 との相互作用は、核への輸入を媒介します。非リン酸化 EIF4EBP1、EIF4EBP2、および EIF4EBP3 は、EIF4G1/EIF4G3 と競合して EIF4E と相互作用する。インスリン刺激による MAP キナーゼ (MAPK1 および MAPK3) による EIF4EBP1 のリン酸化は複合体の解離を引き起こし、EIF4G1/EIF4G3 が結合して翻訳を開始する。ラバマイシンは、FKBP を介したインスリン刺激を減弱させる。EIF4A1 および EIF4A2 とは相互排他的に相互作用する。NGDN および PIWIL2 と相互作用する (類似性による)。ラッサ熱ウイルス Z タンパク質と相互作用する。

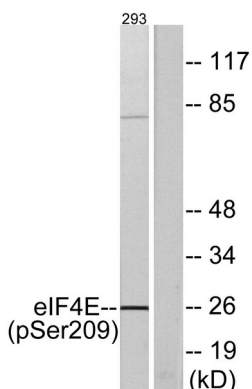
研究分野

mTOR;インスリン受容体;

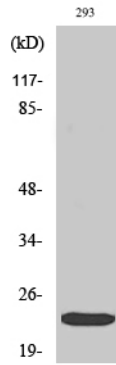
画像データ



eIF4E (リン酸化 Ser209) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



アニソマイシン 25ug/ml、30ug/ml で処理した 293 細胞ライセートの eIF4E (リン酸化 Ser209) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 eIF4E (S209) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析